

ご自由にお持ち下さい。

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

najyodasu なじょだす

Vol.66

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

盛岡赤十字病院広報誌 vol.66

【なじょだす】(岩手の方言)

相手の健康を気づかうなど、「いかがですか」の意味。
当院のシンボルツリーのコナラの木は、正面玄関前にそびえ立ち、
訪れる人々に「なじょだす」と語りかけているかのようです。



令和6年能登半島地震被災地へ救護班を派遣!!

特集

2024.1.1 能登半島地震発生
— 能登半島地震に伴う救護活動について —

- 腸重積症ってなあに？
- 脳卒中相談窓口
- 特定行為研修終了後の活動
- **連載** 医訪人 言語聴覚士

特集

2024.1.1 能登半島地震発生

— 能登半島地震に伴う救護活動について —



令和6年能登半島地震の被災地を想う

整形外科医師 谷藤 航

元日16時過ぎ、石川県能登地方を中心にM7.6の地震が発生、日本海沿岸に津波が到達した。正月三が日の間余震が続き、本原稿執筆時点で死者は240人、損壊家屋は約40000棟に上る。

当院救護班の第1班長として同10日からの5日間、石川県能登町での災害救護活動に従事し、主には各避難所への巡回診療と状況の評価を行った。

ある高齢者施設でインフルエンザのクラスターが発生。能登町では生活水や避難者を仕切るパーティションの供給が不足しており、清掃・手洗いのほかゾーニングも容易でなかった。結果としてみなし陽性や予防投与として抗インフルエンザウイルス薬をほとんどの利用者に処方することとなり、感染症コントロールの困難さを実感した。

経口摂取量が減り被災前に歩行していたとは思えないほど衰弱した高齢女性に出会った。既往に糖尿病があった。脱水症状・血糖コントロール不良の状態と推測、地域の拠点病院へ搬送した。巡回診療では血液検査や画像検査を行えない中、患者が急を要す状況か否かの見極めが重要となる。我々も普段の診療で、まず全身状態の評価・治療が手術よりも優先される状況の高齢者外傷に接することが多くなった。その経験が今回に生かされたと感じ、「（病ではなく）人を診る」ことの重要性を再認識した。

津波の恐怖から自力で逃げるができず死を覚悟していたという高齢女性は、家を訪ねてきた隣人に手を引かれ裏山へ避難したとのこと。毎日顔を合わせ会話をし、何かあれば察知できるような関係作りがその地域にはあった。高齢夫婦や高齢独居の多い岩手県、自分の異常を発信する・周囲の異常に気づくための備えについて各家庭で確認してみてもどうか。

自身が過酷な状況にも関わらず岩手県人と知ると「東日本大震災は大変でしたね」と労いの言葉をいただくことも多かった。派遣に際し私にも葛藤や恐怖はあったが我々がやらす誰がやるのか、最終的にはその一心で活動したように思う。岩手県も復興途上ではありながら、東日本大震災から13年目を迎える今、それなりに豊かで平穏な日常が戻りつつあると感じる。石川県をはじめ多くの被災地にも1日も早く穏やかな日々が訪れるよう願うばかりだ。今回の経験をほかへ伝え、自身にも生かし、被災地のためにできることを今一度考えてみよう。

令和6年能登半島地震発生に伴い、当院では以下の通り支援を行っております。一人でも多くの被災された方の安心と健康をサポートするために今後も継続して活動を行ってまいります。

職員派遣状況（2月20日現在）

チー ム	派遣者数	活 動 期 間
救護班第1班	7名	1月10日～1月14日
救護班第2班	7名	1月15日～1月19日
救護班第3班	7名	1月21日～1月25日
コーディネートチーム第1班	4名	1月24日～1月30日
救護班第4班	7名	1月30日～2月3日
救護班第5班	6名	2月13日～2月17日
コーディネートチーム第2班	3名	2月19日～2月25日



令和6年1月1日に発生した能登半島地震によって被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

日本赤十字社では、令和6年能登半島地震災害による義援金を受け付けております。



こちらからご確認ください。

— 子どものお腹の病気 —

腸重積症ってなあに？

第一小児科部長 小西 雄

腸重積症とは、口側の腸がお尻側の腸に入り込み、腸が閉塞する病気です。生後3か月から2歳の児に好発し、原因の多くは、ウイルス感染などで腸のまわりのリンパ組織が腫れ、腸に入り込みやすくなると考えられています。

腸重積症では、腸が入り込み嵌頓することにより、数十分間隔の腹痛・不機嫌がみられます（①間欠性腹痛）。また腹痛に伴って嘔吐が見られます。入り込んだ腸の部分が行き止まりになり、徐々に胆汁という消化酵素が混じった緑色の嘔吐になります（②胆汁性嘔吐）。入り込んだ腸がしめつけられ、便に血が混ざります（③イチゴゼリー様血便）。これらの3つが、腸重積症でみられる主な症状です。

腸重積症が疑われた場合、診断には超音波検査が有用です。腸の重積部分が的のように見えるターゲットサイン¹⁾が特徴的です。治療は、X線透視下に、お尻から造影剤を注入して圧をかけ、入り込んだ腸を元に戻します（非観血的整復²⁾）。超音波で見ながら整復する施設や、空気をお尻から入れて整復する施設もあります。非観血的整復で元に戻らない場合（10%）や、症状が出てから時間がたっている場合など、手術が必要になることもあります。

冬はウイルス性胃腸炎が流行し、胃腸炎を契機に腸重積症をきたす場合もあります。腸重積症は、診断が遅れると重症化し、生命にかかわる病気です。お子様が急に強くおなかを痛がったり、便に血が混じったりする場合は、お早めに小児科でみてもらうことをお勧めします。



1) ターゲットサイン



2) 非観血的整復

小児科に関する症状でお困りごとがございましたら
お気軽に当院へご相談ください。



脳卒中相談窓口

脳卒中は重度の後遺症が残ってしまったり再発を繰り返してしまう方が少なくなく、寝たきりになる原因の3割以上、認知症になる原因の約2割を占め、疾病による死亡及び要介護状態となる原因の主要なものとなっています。脳卒中による困りごとは治療や予防、医療費や自宅での生活、仕事の両立等と多岐に渡り、どこに相談すればよいか分からない場合があります。またこれら全てに精通している職員がいるとは限りません。

そこで当院ではワンストップで相談を受けるべく、令和5年7月に脳卒中専門医、看護師、社会福祉士で構成された「脳卒中相談窓口」を設置しました。必要に応じて薬剤師・栄養士・理学療法士等の専門職も協力し、みなさんと一緒に考えていく支援を行っていますので、お困りの方は下記にご相談ください。

対象者

当院に脳卒中で入院歴がある方とその家族

主な相談内容

- 脳卒中の医療や介護について
- 脳卒中の治療や予防、後遺症について
- 経済的、社会的な困りごと
- 患者・家族の生活上の注意点
- 仕事と治療の両立について
- 介護保険・福祉サービスについて
- その他の脳卒中に関すること



受付部署／場所・連絡先

総合患者支援センター（1F 内科外来向かい） TEL 019-637-3111（内線338）

受付時間

月～金（土・日・祝日除く） 9:00～16:00

面接日時は受付後に日程調整させていただきます。※相談は無料です。守秘義務は遵守します。

特定行為研修終了後の活動

クリティカルケア認定看護師／特定看護師 生内 秋子

特定行為とは、医師が行っている医療行為の一部を看護師が予め医師が定めた手順書に沿って診療の補助を行うことです。特定行為を実施することで患者様に迅速かつ適切な時期に看護を提供することが出来ます。例えば、看護師が静脈から採血できない患者様の場合、医師が動脈から採血を行うことがあります。しかし、医師が救急患者様の対応や手術などで多忙になると医師が来るまで待つことになります。すると、血液検査の結果が遅くなります。看護師が特定行為の一つである動脈からの直接採血ができれば、医師を待つことなく血液検査の結果がわかり、患者様は適切な治療を早く受けることが可能になります。

私は、令和4年度に岩手医科大学附属病院高度看護研修センターで特定行為教育課程（外科術後病棟管理領域）を修了しました。動脈からの直接採血や中心静脈カテーテルの抜去など15種類の特定行為を行うことが可能になります。現在、岩手県で外科術後病棟管理領域の特定行為を修了し活動している看護師は6名です。

特定行為研修終了後は、安全な医療を迅速かつ適切な時期に患者様に提供できるよう医師と一緒に手順書を作成し、主にHCUで活動しています。また特定行為教育課程で学んだ知識を活用し、急変の予兆に気づくための研修会や重症な患者様に対する看護の勉強会を企画開催し、看護の質の向上や看護実践能力が上がるよう活動しています。



特定行為教育課程での実習風景

特定行為

- ・ 中心静脈カテーテル抜去
- ・ 動脈からの採血
- ・ 人工呼吸器の設定変更
- ・ PICC挿入 など



言語聴覚士
佐藤 恭子

「いい仕事だね」と患者さんやご家族から声をかけていただくと、この職業を選んでよかったなと感じます。

言語聴覚士（ST）の佐藤恭子です。

私は言語障害、高次脳機能障害、嚥下障害のリハビリを行っています。

ST 1 年目、就職した病院は脳卒中専門病院では他職種から信頼厚い先輩方に指導され、忙しいながらも充実した臨床ができました。

ST 8 年目、言語聴覚療法室の新設として私は当院に勤務。当初は多くのスタッフが『ST？なにをする人？』という状態からのスタートで絶望しました（笑）。今だから言えますが、ある医師（今はいませんよ）からは「え？君が評価するの？」と、ある看護師からは「ご家族ですか？」（職員ですよ！ほらユニフォーム着てますから！）と仕事内容も存在も認知されていませんでした。一人職場ならではの、“勝手に落ち込み、勝手に辞めたい気持ちになる”を繰り返しました。

今、ST 18 年目、当院に来て 10 年目。他職種からの認知度はあがりスムーズに仕事ができるようになりました。後輩もできました。

『ことば』『食べる』にかかわるこの仕事は、人間が文化的に生きるために不可欠だと思っています。言語聴覚士、やっぱり私にとっては“尊い”職業です。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

盛岡赤十字病院

〒020-8560

岩手県盛岡市三本柳6地割1番地1

Tel.019-637-3111 Fax.019-637-3801

広報誌「なじょだす」Vol.66 令和6年2月1日発行

編集／発行 盛岡赤十字病院広報委員会

藤原 純、松葉真紀子、川村美奈子、田中 陽子
富岡 幸子、梅村 景太、平 苑佳、菅原 陽介
寺尾 優紀、板橋 亨一、齊藤 純子

盛岡赤十字病院

検索